

[担当教員]

小幡剛也（客員教授 / 竹中工務店） 本田孝子（日建設計） 畑友洋（畑友洋建築設計事務所） 槻橋修（教授） 浅井保（助教）

[Teaching Assistant]

泉貴広 (A72) 千馬生吹 (A72) 柳内あみ (A72)

■課題概要

敷地は阪急六甲駅北側プラットフォーム沿いの区画。ここに建築教育施設、建築に関連する諸々の情報の発信拠点、そして駅機能の複合施設を計画する。阪急六甲駅の平日の乗降客数は約30,000人/日。一方、教育施設の主たる利用対象者は神戸大学建築学科 / 建築学専攻の関係者は約500人。さらに情報の受信者は不特定多数、無数の市井の人々である。ここを通過・滞留・滞在・参加（遠隔含）そして交錯する人々の間の創造的コミュニケーションを促し、これらの多様なアクティビティを可視化する場所とする。このようなイメージを顕在化させる、唯一無二の、ここにしかない磁場を創造することが本課題の趣旨である。

■附带条件

駅機能は敷地内のいずれかに再構成する。既存バス・タクシー乗降機能は敷地外の隣接地に移設するものとし、計画敷地内には不要。教育施設は建築学科に所属する学部生・大学院生・社会人・研究者・教員を主たる利用者とする。情報受信者は建築・関連諸分野のインフォメーションや展覧会・セミナー（ウェビナー）などに集う人々である。それぞれの機能が輻輳する形態とする。建蔽率・階数は規定しないが、複数階積層が前提（面積要件を参照）。周辺環境に配慮したものとし、ランドスケープデザインも建築と同様の地平で思考すること。建築延面積は8,000㎡程度とする（敷地（線路敷除く）は約9,600㎡）。

■計画要件

1. 駅施設（計1,000㎡）

改札口、駅長室、架線上施設、階段等、ショップ、WC他

2. 教育施設

スタジオ 400㎡×2、デジタルファクトリー 200㎡、講義室 80㎡×4、150㎡×2、300㎡×1、研究室 25㎡×30、会議室 30㎡×3、50㎡×2、100㎡×1、資料室 250㎡、レストルーム、シャワー、ランドリー他

3. 情報発信施設

ホール 600人収容・ステージ、ホワイエ、レセプション、ライブラリー、ワークショップルーム、建築模型展示室、デジタルアーカイブ他
+コミュニケーション施設（自由設定）

カフェテリア、レストラン、ショップ、アート、フォリー、各機能を連鎖するオープンエア空間等



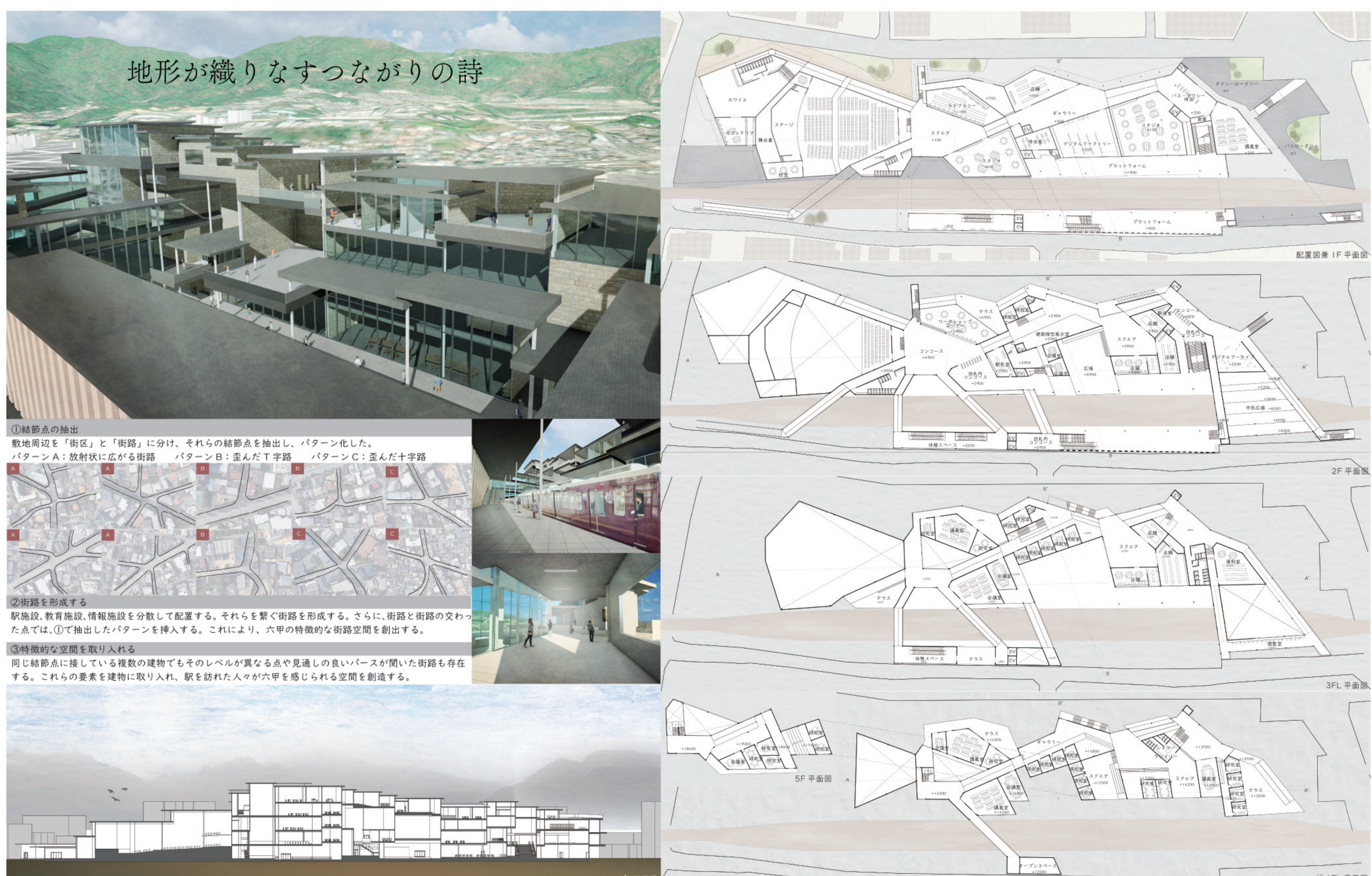
国土地理院 地理院地図 (https://maps.gsi.go.jp/) をもとに編集者作成

課題敷地

地形が織りなすつながりの詩

関川珠音

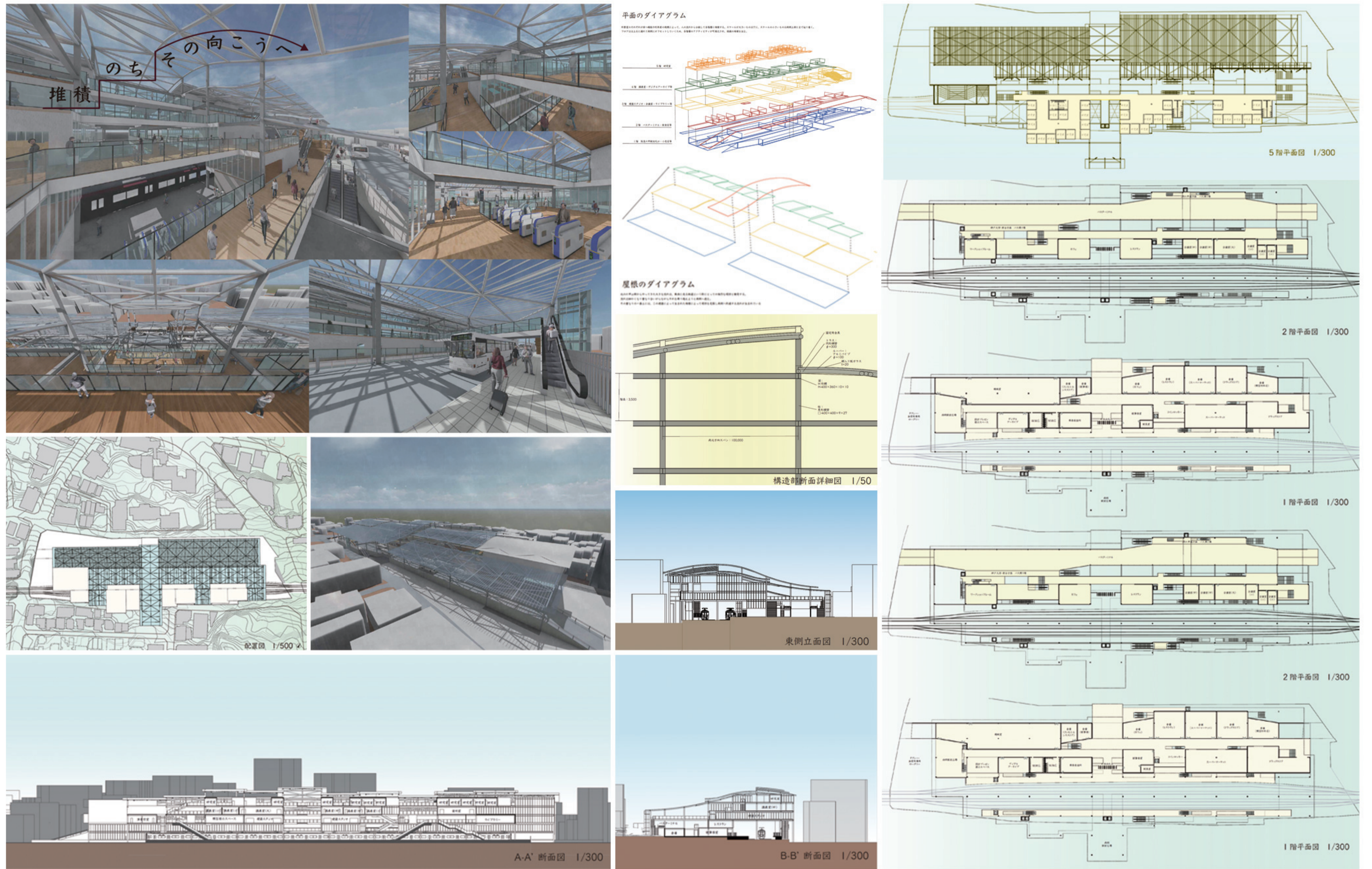
六甲の高低差のある街路が生む歪んだ交差点を起点に、偶然の形状が生む空間の余地を活かす。駅利用者や大学関係者が自然に交わる場とし、通過点でありながら立ち止まり、交流が生まれる空間を目指す。日常に小さな驚きや発見を提供し、まちの物語の一部となる場所を描く。



堆積のちその向こうへ

近藤努

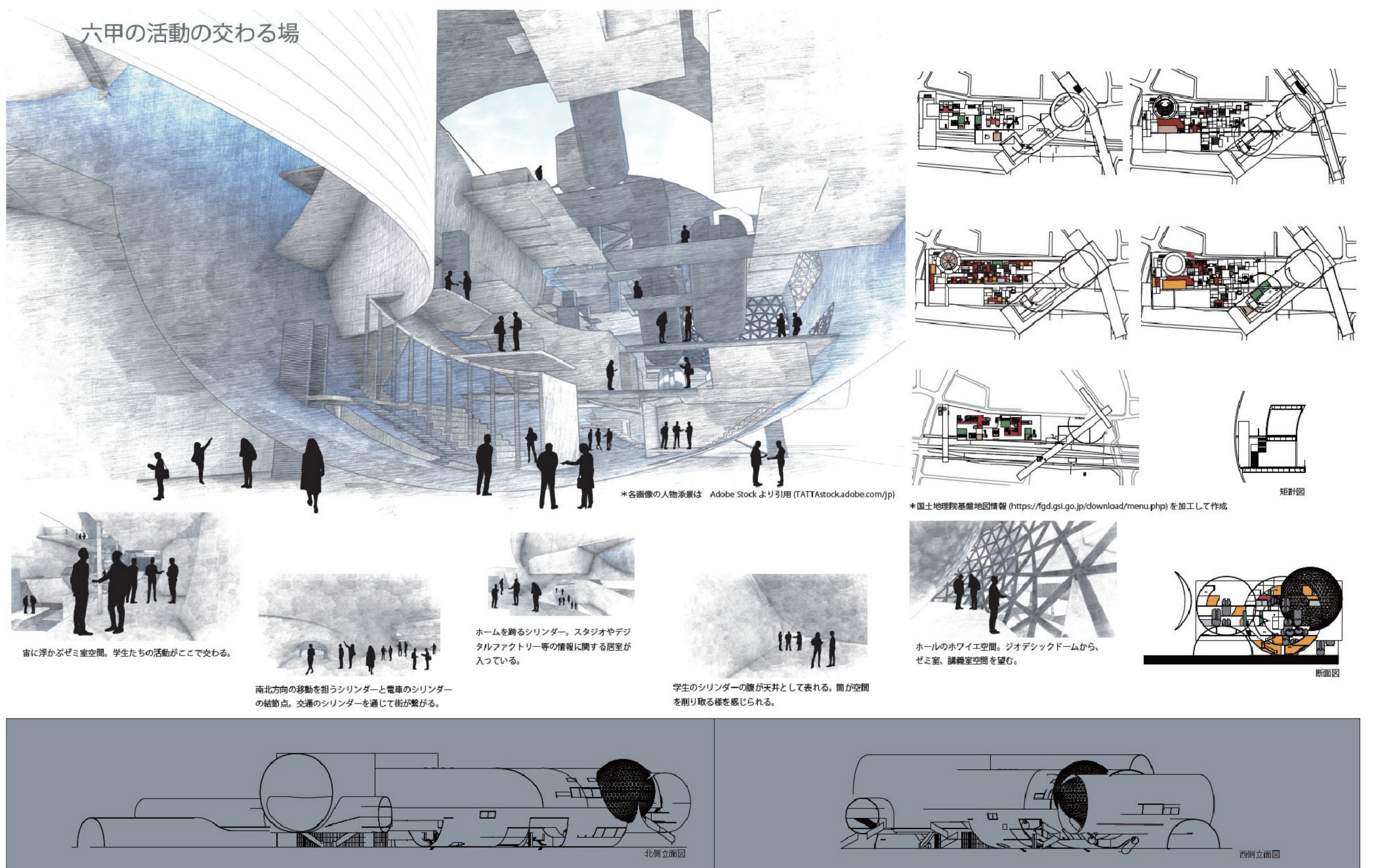
六甲山の麓に広がる住宅地や大学施設から六甲駅に向かってくる人や交通の流れは、東西に広がる駅に向かって広がりながら押し寄せる。それはまるで山から流れてきた土砂が堆積するようであり、東西に避けることしかできない駅施設は流れを堰き止める堤防のようである。



六甲の活動の交わる場

森田雅都

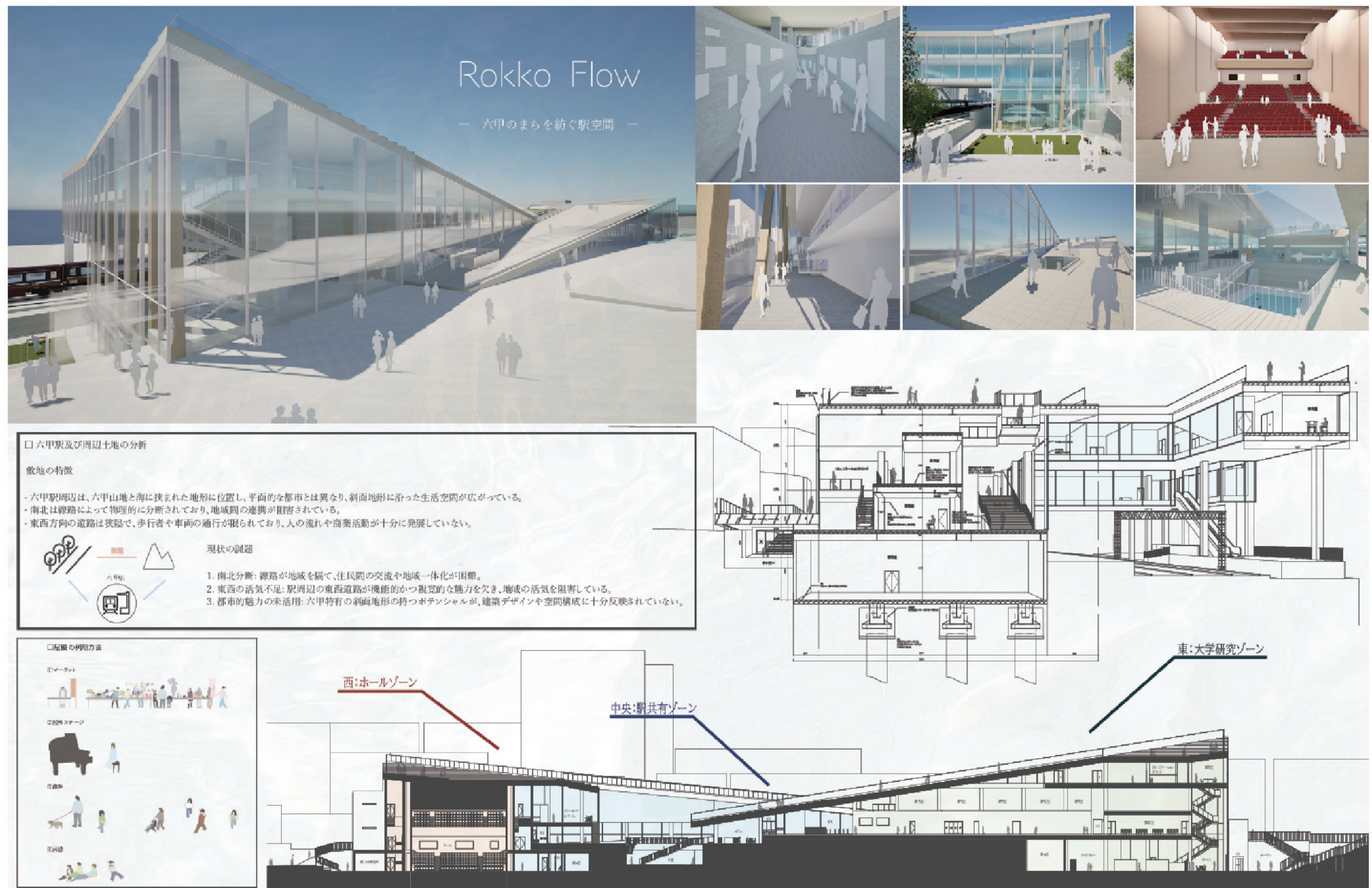
阪急六甲駅では、様々な活動が交錯する。しかし、線路が地域を分断している。そこに、新たに学生の活動が加わり、地域を分断していた駅が交通の用途を超える。各々の活動がチューブとなりぶつかり合う。様々な人々やアクティビティが交差し一つの風景を生み出す、架け橋となる。



Rokko Flow ー六甲のまちを紡ぐ駅空間

篠崎楓日

線路によって断たれた土地に、東西南北を繋ぐスロープを架ける。都市の流れをすくい上げ、緩やかに結び直す装置として。大学機能とホールを結節点とし、その間に広がる共有空間が、人々の足をとめ、新たな交差を生む。動線はただの通路ではなく、街の鼓動を映す風景へと変貌する。



NESTATION

松嶋祐希

中長期的な利用者がほとんどの六甲駅。閉じているようで開いている、秘密基地のような居場所をつくりつつ、3種類の素材を用いた台形の外觀によって、シンボリックで、愛着を持ち、人の記憶に残る駅となるよう設計。



Station with University –街の中に余白を生み、交流を促す–

阿部稜平

大学教育機関・学生と、地域住民・駅利用者という普段関わることのない両者をこの大学を併設した駅で繋げる。この街には見られない「余白」の空間を半屋外につくり、学生と地域住民・駅利用者の動線や視線の交わりを通して街で起こるような自然な交流を生み出す。

Staiton with University
—街の中に余白を生み、交流を促す—

六甲の特徴

1. 都市的特徴
駅という特定の空間が立ち並び、人々が集まる場所(空間)が目的。用途は多岐にわたる。駅という特定の空間が立ち並び、人々が集まる場所(空間)が目的。用途は多岐にわたる。駅という特定の空間が立ち並び、人々が集まる場所(空間)が目的。用途は多岐にわたる。

2. 地形的特徴
高低差が大きい。駅が中心となり、周辺の建物や緑地が広がる。高低差が大きい。駅が中心となり、周辺の建物や緑地が広がる。高低差が大きい。駅が中心となり、周辺の建物や緑地が広がる。

3. 駅の特徴
駅舎と駅周辺の建物や緑地が一体化し、駅を利用する人々の動線が広がる。駅舎と駅周辺の建物や緑地が一体化し、駅を利用する人々の動線が広がる。駅舎と駅周辺の建物や緑地が一体化し、駅を利用する人々の動線が広がる。

大学が駅施設と一体となる意義

大学と駅が一体となることで、大学と地域の交流が促進される。大学と駅が一体となることで、大学と地域の交流が促進される。大学と駅が一体となることで、大学と地域の交流が促進される。

提案

○ダイアグラム
1. 二次元的な操作
2. 三次元的な操作
3. 層状の操作

○大学と住民の交流を生む
駅舎の交わりを意図的に作り、駅利用者の動線が建物や研究施設を通るようになる。駅舎の交わりを意図的に作り、駅利用者の動線が建物や研究施設を通るようになる。駅舎の交わりを意図的に作り、駅利用者の動線が建物や研究施設を通るようになる。

Arch Corridor ~懸垂の学窓~

熊坂泰我

現在の駅によって隔てられた敷地に視線や光を取り入れ、窮屈な東西方面を自由通路となるようなコリドーでつなぎ、駅前の大学施設という特色を利用して地域の人々に建築の活動を知ってもらい大学と地域をつなぐ。特徴的な曲線の屋根や天井は求心性を生み、創造力を育ませる。

Arch Corridor
~懸垂の学窓~

今駅、大学、地域をつなぐコリドー

駅、大学、地域をつなぐコリドー
駅、大学、地域をつなぐコリドー
駅、大学、地域をつなぐコリドー

カトリウム
カトリウム

東庄毛セメント
東庄毛セメント

Station with University
Station with University

1F PLAN
1F PLAN

2F PLAN
2F PLAN

3F PLAN
3F PLAN

4F PLAN
4F PLAN